

# カボチャ省力栽培の実証

農業技術振興センター企画情報部

## 【普及活動のねらい・対象】

滋賀県ではカボチャ栽培は中間管理作業についてほとんど手作業となっています。収益拡大とスケールメリットを活かした所得確保のためには、主要作業の大幅な省力化が必要です。そこで、短節間品種、セル育苗、機械定植、全量元肥施肥等の技術を組み合わせた省力栽培体系の現地実証試験を甲賀市信楽町黄瀬で行いました。

## 【普及活動の成果】

### (1) 実証試験概要

- ・甲賀市信楽町黄瀬 (10a)
- ・品種：ほっとけ栗たん、
- ・畝立・基肥：5月6日・播種：5月9日・定植：5月25日
- ・栽植密度：畝幅150cm×株間50cm 1200株/10a
- ・防除：5月6日ダ イジノ粒、7月9日ダ コニール1000



肥料名	10a 施用量 kg
苦土石灰	100
ようりん	20
鶏糞	150
油粕	40
I B化成	20
燐硝安加里	20
育苗じまん	9

### (2) 調査結果

- ・観察調査結果 開花・交配日 6月26日、完熟日 8月5日
- ・生育調査結果

つる長(6/28)	葉色(7/12)	着果節位/着果節位長/つる長(7/28)
181cm	40.0	9.1節/64cm/532cm

- ・収穫調査結果

果高/果径cm	平均果重	外観品質	10a 換算収量
14.2cm/17.0cm	1.72kg	3.40	1,892kg

- ・実収量 10a 当たり1440kg
- ・労働時間調査結果

慣行栽培	147時間
省力栽培	92時間

### (3) 得られた成果と今後の課題

短節間品種、セル育苗、機械定植、全量元肥、耕耘+畝立て+マルチ一貫作業、放任整枝、一斉収穫、光分解マルチ等を組み合わせて検討した結果、10a 当たり100時間を切る大幅な省力化と一定の収量に目処が立ちました。



耕耘+畝立て+マルチ一貫作業